

空手道拳道会第 34 回全国選手権大会において実施した COVID-19 対策について

大会実行委員会

2020 年 12 月 7 日

●第 34 回全国選手権大会での COVID-19 対策の基本姿勢と基本対策

基本姿勢:

拳道会では、大会に参加する全員の安全を第一としてとらえ、感染予防に万全の対策で臨み感染者ゼロの大会を目指しました。

基本対策: ①消毒を徹底する事 ②「密」にならないように大会を運営する事
 ③換気を注意して行う事 ④飛沫感染を予防する事

※この他に時間を短縮することと接触機会の軽減することを取り入れました。

1. 事前対策について

- ①参加者全員に事前に健康観察・活動記録表を配布して、大会までの 2 週間の体調、行動記録を当日提出するようにした。
- ②感染を避けるための自覚ある行動を要請した。
- ③東京武道館(大会会場)との事前協議を適宜行い、東京武道館の定める感染予防措置を遵守するようにした。

2. 基本対策の実施状況について

1) 消毒の徹底

- ①競技部門終了時に噴霧器とモップを使用して畳の消毒を行った。
- ②不特定多数が触れると思われるもの(手すりやドアノブなど)の消毒を 5 回実施した。
- ③控室、役員席、記録席、審判係員控え席の椅子、テーブル、マイクの消毒を休憩ごとに実施した(午前に 5 回、午後に 5 回)。
- ④選手は試合前後に、審判は競技種目ごとに手指消毒と足裏消毒を実施した。

※消毒時に使用したペーパータオル等を捨てるゴミ箱を設置した。ゴミは封をしてこまめに処理した。

- ⑤会場内随所にアルコール消毒液を配置した。
- ⑥防具は使用した選手自身が消毒をした。
- ⑦下足場では検温を行い、第一武道場内の受付では手指消毒を行った。

2)「密」にならない大会運営

大会会場の定めた収容制限(50名)を遵守するよう大会を運営した。

- ①入館には、「密」を避けるためにセパレーターを使いソーシャルディスタンス(SD)を確保した。
- ②入館の許可のためと人数把握のために識別プレートを配布した。
- ③無観客試合とした。
- ④競技種目ごとに分けて集合時間を設定した。
- ⑤「密」を避けるために受付を2ヶ所(選手用、役員スタッフ用)設置した。
- ⑥座席数を大幅に減らした。

3)換気について

換気のため大会中は常に窓を全開にした。

4)飛沫感染予防、接触機会の削減、時間の短縮について

- ①参加者全員にマスクの着用を要請した。
- ②受付ではパーティションを設置して飛沫感染予防、物品の手渡しには手袋をした。
- ③審判は飛沫予防のためマスク、メガネを着用して行った。
- ④選手は、競技直前(型・組手)までのマスク着用を要請した。
- ⑤開会式、午後競技開始前の挨拶などの時間を短縮した。

役員紹介は最小限にした。選手宣誓はマスク着用の上、普段より距離を取り行った。

⑥表彰時の接触機会を減らした。

プレゼンターは手袋を着用。

メダルは首に掛けずに箱のまま渡した。

賞状は後日郵送とした。

⑦一般男子組手競技では飛沫感染予防対策を施したヘッドガードの着用を義務化した。これに伴い拳サポーターの着用も義務化した。

ヘッドガードにはマウスガードを装着した。(一般女子も同様)

⑧受付で来場者に渡す物品(パンフレット、記念品、ゼッケン、識別プレート等)は紙袋にまとめて渡した。

☆大会運営にて要請した内容は、参加者の協力によりすべて実施できたと考えています。

☆最大入場者数(同時)は45名(午後3時)でした。

3. 事後対策について

来場者全員に、大会後2週間分の健康記録活動記録表を渡し、記入を要請した。

大会後2週間内に発熱、倦怠感など体調に変化があった場合は大会本部に連絡するよう要請した。

※12月7日時点で体調に異常があったとの報告は無し。

4. その他の対策について

1) 救護はフェイスシールド、マスク、手袋、ビニールカッパを用意して業務にあたった。

フェイスシールド、手袋、ビニールカッパは1名を診る度に消毒した上で廃棄する2重に密閉した上で廃棄する準備をした。

2) 発熱などの体調不良者に備え、看護師をリモートで待機させた。

3) 大会会場に入れない関係者の為に、LIVE配信を実施した。